

第十二回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会 前書俳句の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

追悼 悦子さん

百轉に囲まれ遊びなさいませ

京都府舞鶴市

新庄富実

京都府知事賞

子供の書いた願い事

七夕や神さまだけにわかる文字

兵庫県神戸市

平尾美智男

与謝野町長賞

夫と歩いた木道

一人にはやはり広しと黄菅径

大阪府堺市

井上昌子

宮津ロータリークラブ会長賞

辻田克巳墓碑「泣く奴があるか鶯鳴きにけり」

京都府宇治市

鶯が鳴けり泣くなと言はれても

福井貞子

田中春生賞

初ボーナスの末孫より

どこ産と野暮は言はざり土用鰻

東京都足立区

田中靖人

山尾玉藻賞

安倍元首相の撃たれし日に

京都府京都市

不意に画面消えて溽暑の真昼かな

うえの乙鳥

選評一覽

選者 田中春生 山尾玉藻

与謝野町俳句大賞

追悼 悦子さん

百轉に囲まれ遊びなさいませ

京都府舞鶴市 新庄富美

【田中】『百轉』は大石悦子さんの最後の句集。彼岸において、多くの轉り交す鳥に囲まれて楽しい時間を過ごされるように、と祈る心が伝わる作品。代表句「てふてふや遊びをせむと吾が生れぬ 大石悦子」にも呼応している。

【山尾】大石悦子氏の逝去直前の句集『百轉』を踏まえた胸が熱くなる一句である。しかも氏の代表句の中の「てふてふやあそびをせむとて吾が生れぬ」をも捩り所とした点に深い痛心が込められ、非常に印象深い追悼句である。

京都府知事賞

子供の書いた願い事

七夕や神さまだけにわかる文字

兵庫県神戸市 平尾美智男

【田中】七夕竹に付けられた短冊。そこには文字 も覚束ない子どもの願いごとが書かれている。ちよつと判読しがたい文字だが一生懸命に書かれている。きつと神さまには伝わることだろう。子どもの純心さに心温まる作品。

【山尾】幼児の文字は少々読み辛いが、鏡文字などもあり微笑ましい。「神さまだけにわかる文字」とはその様な文字で短冊に願ひ事が綴られているのだろう。読者にもどの様な願ひ事だろうかと色々想像させる楽しい一句。

与謝野町長賞

夫と歩いた木道

一人にはやはり広しと黄菅径

大阪府堺市 井上昌子

【田中】すでに御夫君は亡くなられていること、今歩いている木道を生前肩を並べて歩いたこと、これらが前書や句の表に記されていないのにハッキリと伝わる見事な作品。一人には広すぎる、に深い思いが込められている。

【山尾】以前は亡きご主人と来られた黄菅途を今回は唯一一人で

辿られているのだろう。「やはり」に予想していた通りだとの淋しい胸中が強調されている。「広しと」の「と」を作者の独り言或いは心の中の呟きと捉えた。

宮津ロータリークラブ会長賞

辻田克己墓碑「泣く奴があるか鶯鳴きにけり」
鶯が鳴けり泣くなど言はれても

京都府宇治市 福井貞子

【田中】墓碑銘の句に応じるように詠まれた句。たとえ泣くことを禁じられても、泣かずにはいられない悲痛な心情が吐露されているといえよう。鶯の鳴きしきるような麗らかな春の日に、墓碑に額づく姿が見えてくるようだ。

【山尾】辻田克己氏の墓碑には代表句「泣く奴があるか鶯鳴きにけり」が刻まれていると聞き、氏のお人柄が偲ばれてならない。氏のその句を本歌取りした弔句で、深い悲しみと哀惜の念が籠められている。

田中春生賞

初ボーナスの末孫より

どこ産と野暮は言はざり土用鰻

東京都足立区 田中靖人

【田中】就職したお孫さんからのプレゼントを受け取った喜び。食通の作者には、鰻についても産地へのこだわりがあるに違いない。だからと言って「なんだ〇〇産か」などと言わぬよう、自戒しているところが面白い。

山尾玉藻賞

安倍元首相の撃たれし日に

不意に画面消えて溽暑の真昼かな

京都府京都市 うえの乙鳥

【山尾】前書きと一句が退つ引きならぬ関わりを以って、昨年の思いもよらぬ安倍元首相銃撃事件勃発を語る一句である。「不意に画面消えて」はアクシデントの瞬間の驚愕を、「溽暑の真昼」は混沌とした脅威を言い得ている。

前書俳句の部 入選一覽

田中春生選

賞候補

甦る戦争の記憶、兄十六歳

大根千し切らずに兄は出征す

神奈川県鎌倉市

嶋村比呂樹

要介護の父が施設に入る事になって父のある場所がふるさと春夕焼

大阪府大阪市

北芝ゆう子

快方に向つていた弟

いきなりの別れ山茶花ほたたと

東京都小平市

福井芳野

野鳥を追ひ森を歩けば

春隣葉擦れの音の角とれて

福岡県太宰府市

白石照子

高校還厩同窓会

片恋は片恋のまま 秋夕焼

神奈川県厚木市

奈良 握

施設の父に面会、制限時間一時間

元気でねと我より先に生身魂

東京都品川区

本多遊子

戦後七十八年今もなお苦しむ人、逝く人あり

また一人刻む石碑の広島忌

埼玉県新座市

山本末彦

師の茨木和生は狐期外を惜しみて

食ふならば夏鹿よ手に入らねど

兵庫県神戸市

堀 瞳子

夫のショートステイに許可を得

荷の隅へ日に一合の冷酒かな

東京都柏江市

志村洋子

佳 作

長瀬ラインくだりにて

万緑の山押し分けて舟下り

埼玉県さいたま市

古郡孝之

三内丸山遺跡に立ちて

天高し縄文太きくり柱

栃木県さくら市

青木青桐

沖繩の学徒の礎への想い

ながれ星つかのま光りみんなみへ

福岡県福岡市

能塚節男

着替え

裸の子あやす右向け左向け

滋賀県大津市

天智曄山

コロナ禍九月一日友が孤独死

先に逝く友を叱るか秋の雷

愛知県岩倉市

山田雅弘

納骨堂を契約す

常世への道定まりぬ著莪の花

福岡県直方市

市川武子

自転車の中学生朝の挨拶

烟の吾に叫ぶごとくや新人生

千葉県横芝光町

伊橋 徹

生後六十日で出征したまま

父知らぬ父へ父の日プレゼント

京都府京丹後市

番場幸子

暑くなれば老仲間の戦話

戦争を知る者同志大暑かな

佐賀県佐賀市

辻 洋子

告白を思い止まりし青春の時

信号の点滅君を追わぬ夏

茨城県東海村

五十嵐悦哉

川の面を見詰めをれば

ぐいぐいと杭遡る出水川

奈良県生駒市

福田えいじ

ボランティア十五年。寄る年波に勝てず

スペアキー返し引退虎が雨

大阪府吹田市

田中富子

夏の朝待合せて仲良くクラブ活動にゆく二人

雲の峰ライバル同士かもしれず

神奈川県横浜市

三五一郎

供花に来て

お地蔵の胸元直す初嵐

京都府与謝野町

尾藤静子

丹後縮緬商家旧尾藤家二於て

藪入りや踵浮かせて与謝峠

京都府福知山市

岡田あざむ

故郷の過疎化を憂う

笹飾二人住なる大山家

愛知県東郷町

下保木淳子

やさしい女らしい字を書く母でした

亡き母の硯洗ひて身ほとりに

兵庫県神戸市

高橋純子

フイリピンから来て介護士をする彼女

「暑いですね」異国訛の後ろから

京都府舞鶴市

大瀧和子

四百年続いた実家の歴史が終わる

家系図に記す文字なし盆の月

京都府京都市

吉田恭子

函館山からの夜景

海分かつ渡島半島夏灯

静岡県沼津市

高橋幸子

山尾玉藻選

賞候補

悼・黒田杏子先生

荒凡夫と木椅子に並び花を待つ

東京都世田谷区

野上 卓

あまりの暑さに

炎天のくらす鋤鋤立てかけて

大阪府東大阪市

土田善子

型通りの総会に臨みて

異議なしに異議なかりけり目借時

神奈川県相模原市

志村宗明

老婆と農作業に動しむ日々

母の日や畑で受け取る宅急便

京都府福知山市

河野正一

施設の父に面会、制限時間一時間

元気でねと我より先に生身魂

東京都品川区

本多遊子

天川栃尾に円空仏の小さき観音堂あれば

堂下は山蟻が守る 観音堂

大阪府寝屋川市

川上純一

野田川や田園のある通勤風景

町ぢゆうに水の通ひ路天高し

京都府与謝野町

山田祥雲

淡路島、沼島へ吟行して

廃帝の陵あたり 稲光

大阪府高槻市

村岸正子

佳 作

癌に逝きし友人を悼む

天高し尾根ゆく君の見ゆるごと

奈良県奈良市

堀ノ内和夫

軽やかな風を道連れ

秋立ちてポケット版の草花集

大阪府堺市

間谷雅代

若人は丹波太郎を眺めて京の都へ上った

大江山に丹波太郎やけふもまた

神奈川県横浜市

今村千年

大石悦子先生、蛇笏賞受賞

百轉の浄土に還り給ひけり

愛知県愛西市

小川 弘

鬱病の夫の介護の日々に思いついた事です

笑ふこと慣らひとするや梅雨の月

愛媛県松山市

中矢えり子

亡くなる五日前の義姉よりメールが届く

白百合や終のメールの「ありがとう」

愛知県名古屋市中区

都築靖子

快方に向つていた弟

いきなりの別れ山茶花ほたたと

東京都小平市

福井芳野

岐阜県白川郷どぶろく祭りにて

どぶろくややがてやかんで振る舞はれ

岐阜県多治見市

可児 勇

丁子忌に

春といふ優しき言葉汀子の忌

滋賀県彦根市

馬場雄一郎

宗家にて親族一同でいただく恒例の若菜粥

ふるさととは父祖の表札若菜粥

京都府京都市

林游実子

非正規に働く人の処遇を憂いて

夜業明け頬杖に繰る求人誌

愛知県名古屋市中区

山内基成

花魁道中

花の昼ゆるりゆるりと時歩む

京都府八幡市

坂口夫佐子

散歩道にある公園の一角の弓道場の朝の体感

的中に響く道場秋気澄む

栃木県下野市

石井東泉

熊野古道を散策

蟻んこの無音のいのち締めきぬ

三重県尾鷲市

中村東太

押し車で、お墓参り道で玉虫を拾う

玉虫や手足正しく光りをり

京都府京都市

山本敏子

父母の世へ

せつせつと目もて渡るや虹の橋

京都府舞鶴市

坂井恭子

地球上に戦争が無くなる事を願い

地球儀を回し八月十五日

兵庫県神戸市

玉手のり子

大石悦子先生の墨書を前に

処暑に替ふ無地の料紙の縹色

京都府八幡市

大山文子

阿波踊りを見てゐてふと思ひ

踊り下駄かくも軍靴の音に似し

徳島県徳島市

大島宏昭

夫、熱中症で骨折、三ヶ月入院

折鶴に吹き入る息と秋声と

兵庫県川西市

田中愛子